

こども分科会について

1 設立趣旨

こども…育ちづらさ
親 …育てづらさ

} 子育てしやすい環境=誰もが住みやすいまちづくり

子育て…相談(核となる場)と地域づくり(つながりをつくる)が必要

2 これまでの取り組み<令和4年7月から令和5年8月まで>

(1) 目標

第3期久留米市障害者計画である「支援が必要なこどもの発達支援と保育・教育の充実」に基づき、こども分科会では下記の取り組みを実施する。

- ① 不登校や引きこもりになっている障害のある児童を含めたこども達の実態や現場の声を聴くとともに、課題の整理を行い、補完できる資源や仕組みを検討する。
- ② りんごマップに掲載した団体同士のつながり強化や新たな活動団体の支援の活性化を図る等、団体へのバックアップ体制を図る。

(2) 取り組み

① について

- ア 不登校、引きこもりに関する相談窓口や支援機関との意見交換。
- イ 不登校、引きこもり経験のある家族や本人からの話を聴く機会。
- ウ 現状の福祉サービス（主に放課後等デイサービス）やフリースクールなどで不登校ひきこもりの児童を受け入れている事業所の数や実態の把握を行う。
- エ 社会資源の見える化など、情報発信の方法や人材育成などの仕組みづくりの検討。

② について

- ア 団体同士が知り合う機会、各団体の活動内容をもっと詳しく知る機会をもつ。（特に今年度は不登校・引きこもりに焦点をあてた関係機関やこども達本人同士を繋いでいく機会をもつ）
- イ それぞれの団体の持つ社会資源情報を共有し合う機会をつくる。

回数	年月日	内 容
第1回	R4.7.29	不登校・ひきこもり支援窓口の活動紹介と意見交換 ・久留米市若者相談窓口みらくる ・福岡県ひきこもり地域支援センター筑後サテライトオフィス
第2回	R4.12.9	・フリースクール「未来学舎」の活動紹介と意見交換

第3回	R5.5.15	意見交換会『出会い・知り合い・つながり合おう ～くるめの町の活動団体～』 ・お母さん大学（松葉荘） ・いろとりどり ・だんだん ・キラリ☆ひろば 参加者：50名（行政、民間、個人）
第4回	R5.7.4	意見交換会『出会い・知り合い・つながり合おう ～くるめの町の活動団体～』 ・久留米市学校教育課スクールソーシャルワーカー ・未来学舎 ・久留米大学地域連携センター ・久留米大学大学院付属心理教育相談センター 参加者：52名（行政、民間、個人）

※親の会、当事者の会、居場所へのヒアリング

一歩の会（R4.8.26）、楠の会（R4.8.26）、ここから（R5.1.6）、

ダンデライオン（R5.1.17）、キラリ☆ひろば（R5.3.28）

※放課後ネットとの意見交換（R5.6.27）

※5月、7月の分科会参加者から会の名前を公募し、分科会の名称を決定

→「こども まん 中 プ ロジェクト in く るめ（略称：こどもまんぷく）」

（R5.7.28）

（3）成果

今年度は特に学齢期のこどもたちに焦点を当て、不登校や引きこもりの支援を行っている団体や親の会などからのヒアリングや意見交換を行った。

さらに、分科会活動内容の検討段階から、これまで関わったりんごマップ掲載団体や各関係機関にも一緒に入ってもらうことで、事務局メンバーの広がりや分科会の活性化を図ることができた。その中で学齢期のこどもたちに関わる団体がお互いをさらに知り合う機会をつくることで、団体同士の関係性もひろがりバックアップできるのではないかと考えた。

そこで、「出会い・知り合い・つながり合おう」をテーマに定期的な分科会を開催した。前半は団体や各関係機関からこどもたちに関わる活動について発表してもらい、後半はグループワークを実施し、参加者同士で意見交換と発表をし、終了後に事務局で意見の集約を行っている。参加者に対し行ったアンケートでは、満足度として「大変満足、満足」が95パーセント以上であった。感想では「まだ知らない活動があり、話を聞くことができるとても参考になった。」「様々な方と話ができて、支援の輪が広がった。」などの回答を得ることができた。

昨年度作成した「りんごマップ」に掲載された団体から広がりが生まれ、こどもの居場所なども含めた新しい資源がプラスされ、お互いの情報交換の場となり活動の活性化にもつながった。行政や関係機関、民間団体などが広く参加することで、障害福祉の分野だけでなく、所管課を超えて、こどもたちを取り巻く現状の把握や何が必要なのかについて、各関係者が考える機会を作ることができている。

また、一部の放課後デイサービスの事業所より「事業所の増加により、横のつながりをもつことができず、質の低下が懸念される。」との声があった。声をあげてくれた事業所から、放課後デイサービスの現状について聞き取りを行い、今後の事業所の質の確保、つながりの強化に向けて、久留米市介護福祉サービス事業者協議会も含めて協議を開始した。

3 課題

- ①不登校、ひきこもりを含めた学齢期のこどもたちの実態の把握にとどまっておき、課題の整理、課題解決に向けた補完できる資源や（人材育成等も含めた）仕組みを検討することまでには至っていない。今後も分科会で意見を集約しつつ、広く子どもに関わる関係者に主体的に参加してもらいながら、課題の整理等を進めていく必要がある。
- ②分科会の活動を通して団体の情報やつながりなどの社会資源をどう発信していくか、必要な情報に繋がりやすくしていく工夫や仕組みも含めて検討していく必要がある。
- ③分科会参加者から会の名前を公募した結果、「こども まん 中 プ ロジェクト in く るめ（略称こどもまんぷく）」と決定。今年度、こどもたちからの声を聴く機会をつくることができなかつたため、こどもたち本人の想いを聴く機会や、こどもたち同士をつないでいく機会、こどもたちが安心して自己表現したり、生き方を探したりするきっかけ作りをしていく必要がある。

4 事業計画 <令和5年8月以降の取組み>

（1）目標

- ①学齢期～思春期のこどもたち（不登校、ひきこもりを含む）の課題の整理、補完できる資源や仕組みの検討。
- ②りんごマップ掲載団体や学齢期のこどもたちに関わる団体や不登校引きこもりの関係機関等が交わる定期的な集まりの場の開催。
つながりの活性化、相互連携や地域づくり支援。
基幹相談支援センターの公式 LINE を活用した情報発信を行い、取り組みを見える化していく。

（2）取り組み内容

開催頻度…年6回

※開催方法はコロナ禍の状況により、集合またはオンライン開催などその都度選択する。

① について

- ア 分科会でのグループワークを通じた意見の集約。
- イ 他の分科会や団体の活動とのコラボも検討しながら、こどもの声を聴く機会や、こどものこれからを考える機会をつくる。
- ウ 広く参加を呼び掛けながら、課題の整理を行う。
- エ 補完できる資源や仕組みの検討。

② について

- ア こどもまんぷく「出会い・知り合い・つながり合おう」の定期開催
- イ それぞれの団体の持つ社会資源情報や取り組み、こどものつなが

- りなど共有し合う機会をつくる。
- ウ 情報発信の検討、取り組みの見える化
- エ 基幹研修会の開催

(3) 期待される成果

こどもまんぷく「出会い・知り合い・つながり合おう」の定期開催、グループワークを通じた意見の集約を行うことで、こどもをとりまく関係者のネットワークの強化を図りつつ、こどもの現状の把握を行うことができる。その中で、こどもの声を聴く機会をもち、こどもが何を必要としているのかを整理していくことが必要である。広くこどもに関わる関係者に主体的に参加してもらうことで、こどもを中心とした相互連携が深まり、参加者が我が事としてとらえ主体的に分科会に参加できるようになることが期待できる。こどもを中心として、どんな資源やしくみがあったらいいのか関係者がお互いにできることを持ち寄り、補完できる資源や仕組みづくりについて検討していく。その過程そのものを評価し、こどもを中心とした地域づくりの醸成をバックアップしていきたい。これらの取り組みの情報発信方法や社会資源などの見える化などを検討していくことで、必要な情報につながりやすくなることや、団体の活動がより活性化することが期待できる。